

# 第6回小千谷リビングラボ「at! おぢや」結果報告

## 1. 概要

11月に公表した基本設計について、コスト削減のため一部内変更し実施設計を行っていることの報告を行った。その後のワークショップでは、施設オープン後の運営をより意識した形で、施設内でのプログラム（使い方や過ごし方）を考えることをアンカンファレンス形式で行った。

## 2. 実施日時

令和3年12月18日（土）13時00分～16時00分

## 3. 実施会場

総合産業会館サンプラザ3階大ホール

## 4. 参加者

78名

- ・一般参加者（54名）
- ・小千谷市役所職員
- ・(株)平田晃久建築設計事務所 ※設計者
- ・(株)国際開発コンサルタンツ ※設計者の協力事務所
- ・アカデミック・リソース・ガイド(株) ※官民連携支援業務受託業者

## 5. 配付資料

- ・第6回小千谷リビングラボ at! おぢや「まちと公共施設の未来をともに創造する」
- ・平面図

## 6. プログラム

13:00-13:07	事業説明	共有 (学び)
13:07-13:10	全体オリエンテーション	
13:10-13:30	設計・検討プロセスについて	
13:30-13:40	アンカンファレンスの説明	対話・ 創造
13:40-14:15	対話 テーマ出し・タイムテーブルづくり [全体]	
14:15-14:50	対話 セッション A [各テーマ]	
(休憩 10 分間)		
15:00-15:35	対話 セッション B [各テーマ]	
15:35-15:55	共有	
15:55-16:00	まとめ	

16:00-16:30 【任意参加】参加者感想共有・フリー対話

－ 事業説明 －

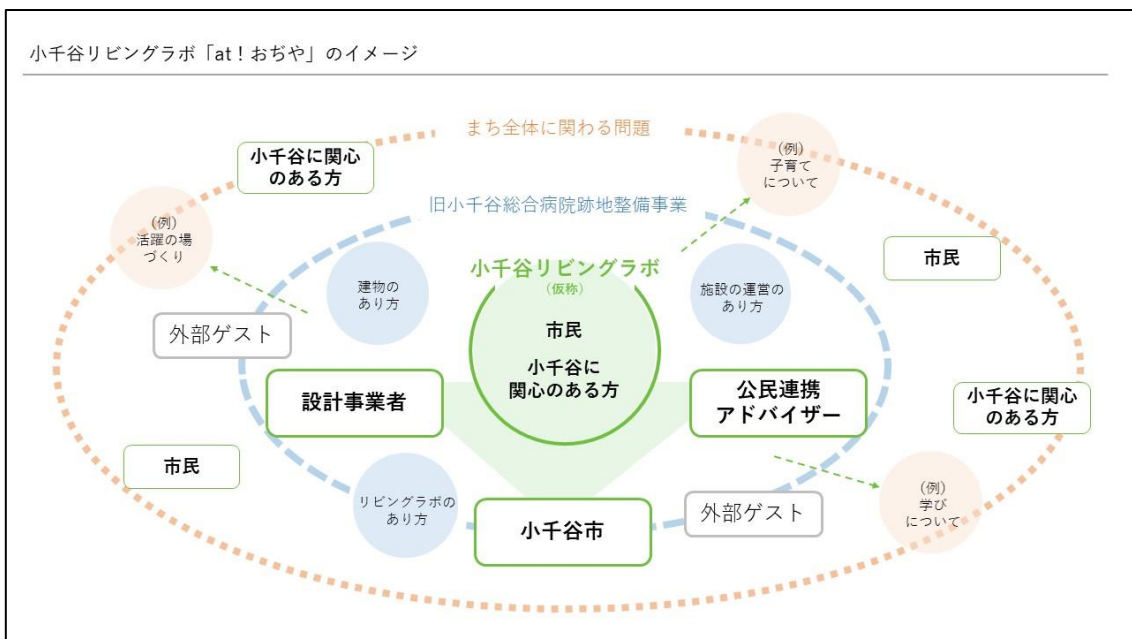
※前回と同じ

－ 全体オリエンテーション －

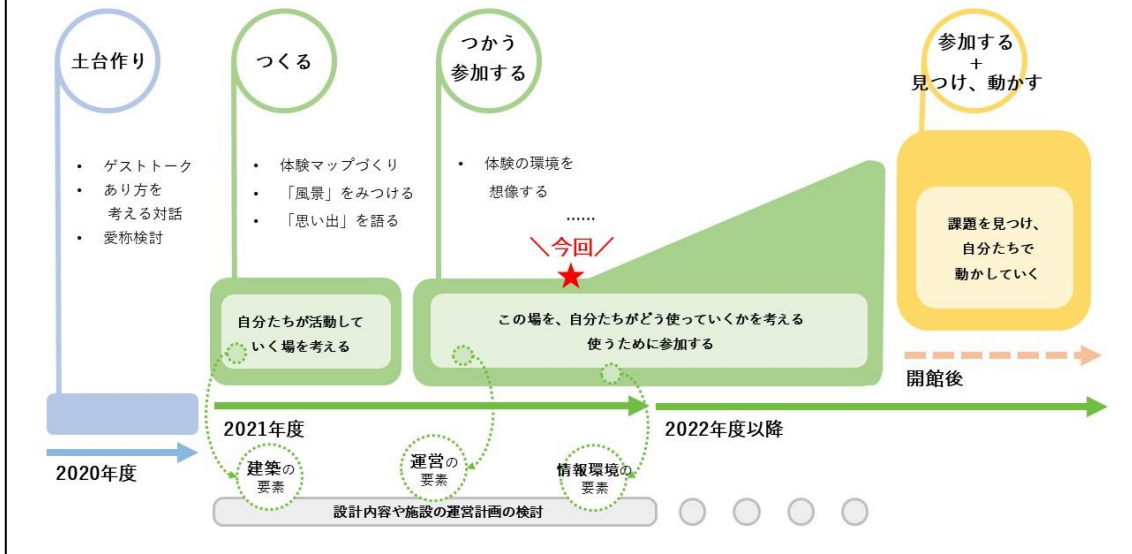
共創

**● 共創 ●**

小千谷市や事業にかかわるさまざまな立場のひとが  
互いに情報を交流し、思い（想い）を共有しながら  
市民とともにかたちづくる  
「わたしたちの」新しい施設づくり、まちづくりを目指します。



小千谷リビングラボ「at! おぢや」の展開



対話のルール

9つのルール

- ・ 何を話してもいい。意見が変わってしまってもいい。
- ・ 人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
- ・ ひととの対話の時間を大切する。発言は1回につき1分におさめる。
- ・ 発言しないで黙って聞いて考えているだけでもいい。
- ・ お互いに問いを投げかけることが大切。
- ・ 知識ではなく、自分の経験にそくして話す。
- ・ 話がまとまらなかったり、わからなくなってもいい。
- ・ みんなで黙ってもいい。
- ・ まとめなくてもいい。

説明者：平田（株）平田晃久建築設計事務所

これまで at! おぢやでワークショップを4回行ってきた。その場で話し合われたことを吸い上げて設計事務所の側で色々なことを検討し、さらに次のワークショップの場に検討するということを繰り返してきた。この施設はフロート・アンカー・ルーフという3つの建築的要素で成り立っている。フロートについては動く書架・展示台であるため図書館職員の方々と、アンカーとルーフについてはこの at! おぢやの場で話し合ってきた。

具体的にはアンカーについて、5月8日の第2回 at! おぢやで行ったワークショップ「施設の使い方を考える」では、家・学校・職場など施設外の様々な場所で起こることと、新しい施設で起こったらしい体験をつなげて想像する中でたくさんのご意見をコレクションした。また、病院閉院後に建物を取り壊すまでの間、市民に無料開放する中で様々な活動が行われたことをお聞きしたため、そうした活動なども含めて、大体100個くらいの活動をコレクションした。そしてその100個の活動について私の京都大学の研究室で数理的な方法を用いるなどしてどのようにグルーピングできるかについて分析し、この時点では13個の特徴あるアンカーをつくるのがいいのではないかと考えた。それぞれのアンカーにはその特性を漢字一文字で表現している。

6月19日の第3回 at! おぢやでこの13個の「アンカー」をどのように並べるかによって3つの設計案をお見せし、これらをどういう風に使えるといいか、どのあたりにあったらいいか、どれとどれが近い方がいいかというワークショップを行った。そのときに評判が良かったのが現在の敷地全体に広くおおらかに使われていく案である。

アンカーの配置が概ね決まったところでそれに対してどういう風にルーフ（屋根）を掛けるかについて話し合った。屋根の形をつくるにあたっては、特に屋根の上（屋上）からどういう風景が見えるか、季節ごとにどちらの方向を向いて人は集まりたいのか、また、これは屋根の内側となる天井の話になるが、この敷地の場所が持つ空間的な軸（長岡－小千谷－十日町を繋ぐ谷の軸、小千谷－魚沼－越後三山の軸、商店街の国道291号の軸）と絡めながらどういう風に形をつくるか、ワークショップの場でも話し合う中で我々設計事務所で検討を行った。最終的にはこれは屋根を引っくり返したときに見える模様（凹凸のある天井）が、山本山の近辺で信濃川が合流し蛇行している感じの谷など周りの地形の感じに合っていて、空間のイメージとしてふさわしいのではないかと考えた。実際の凸凹は単に装飾で凸凹しているのではなく、トラス構造と言われる三角形の構造体が入っていてそのことでおおらかな構造体をつくることのできる。そういうことを踏まえて一旦基本設計をまとめた。

この基本設計をもとに予算内におさまるのかどうか概算で工事費を見積もりしたところ、予算22億円に対してオーバーしていることがわかった。これは今新型コロナウイルス感染症の影響もあって資材の物価が上昇していることに理由がある。その上昇率とほぼ一致する数字である。予算を増やすわけにはいかない事情もあることを踏まえた上で設計の変更を行った。

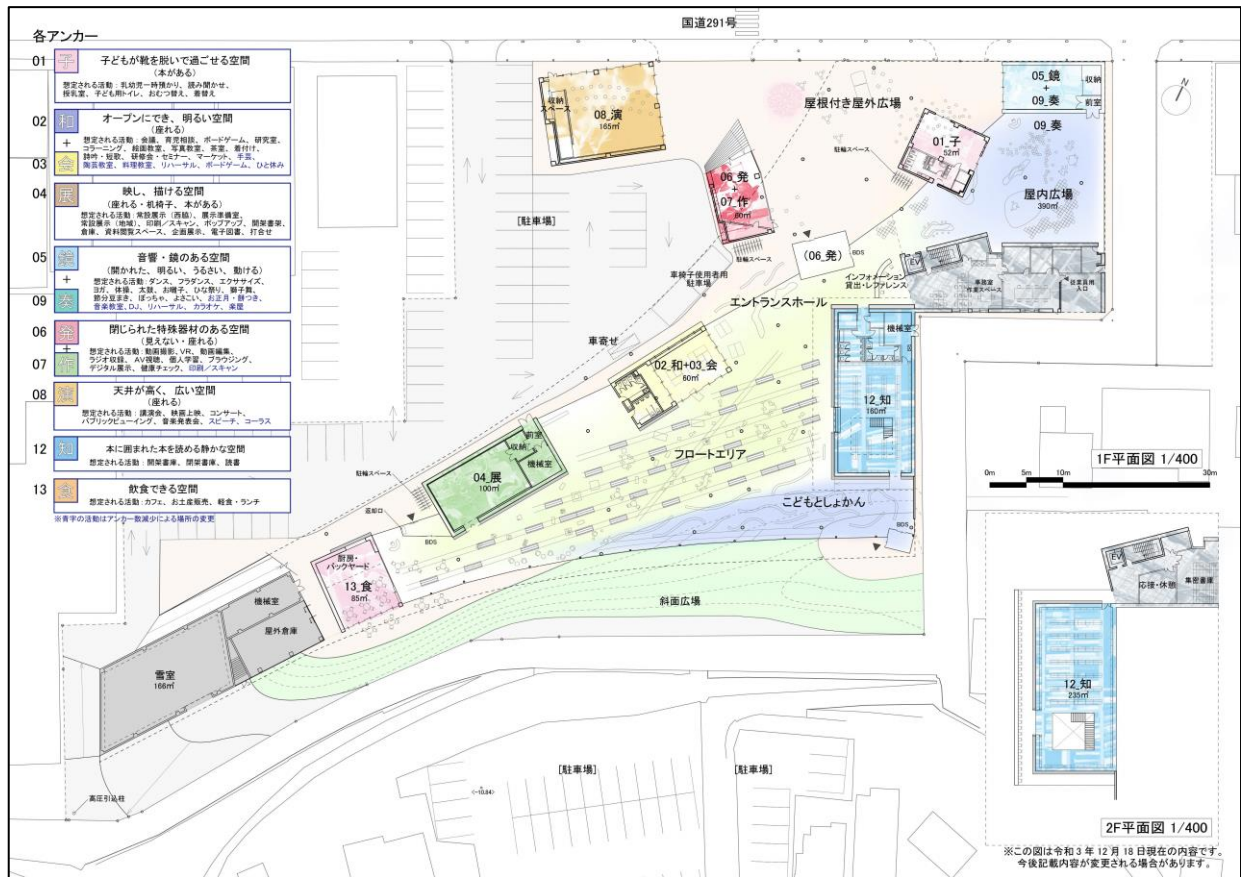
大きな変更点としては、一つはアンカーの数を2つ減らした。ただ減らすのではなく、この特性を持ったアンカーはこっちに兼用できるとか、それなら全体として無理なく運営できるということを確認かめてアンカーをくっつけるなどした。もう一つは屋根の高さである。最大7mの高さでつくって

たが、ここまで高くなくてもいいということもあり全体的に1m下げた。こうして施設全体がコンパクトになることで、ガラスの面積も減り、空調の熱空間の問題もしかり、全体としてオーバー分の減額ができると考えている。

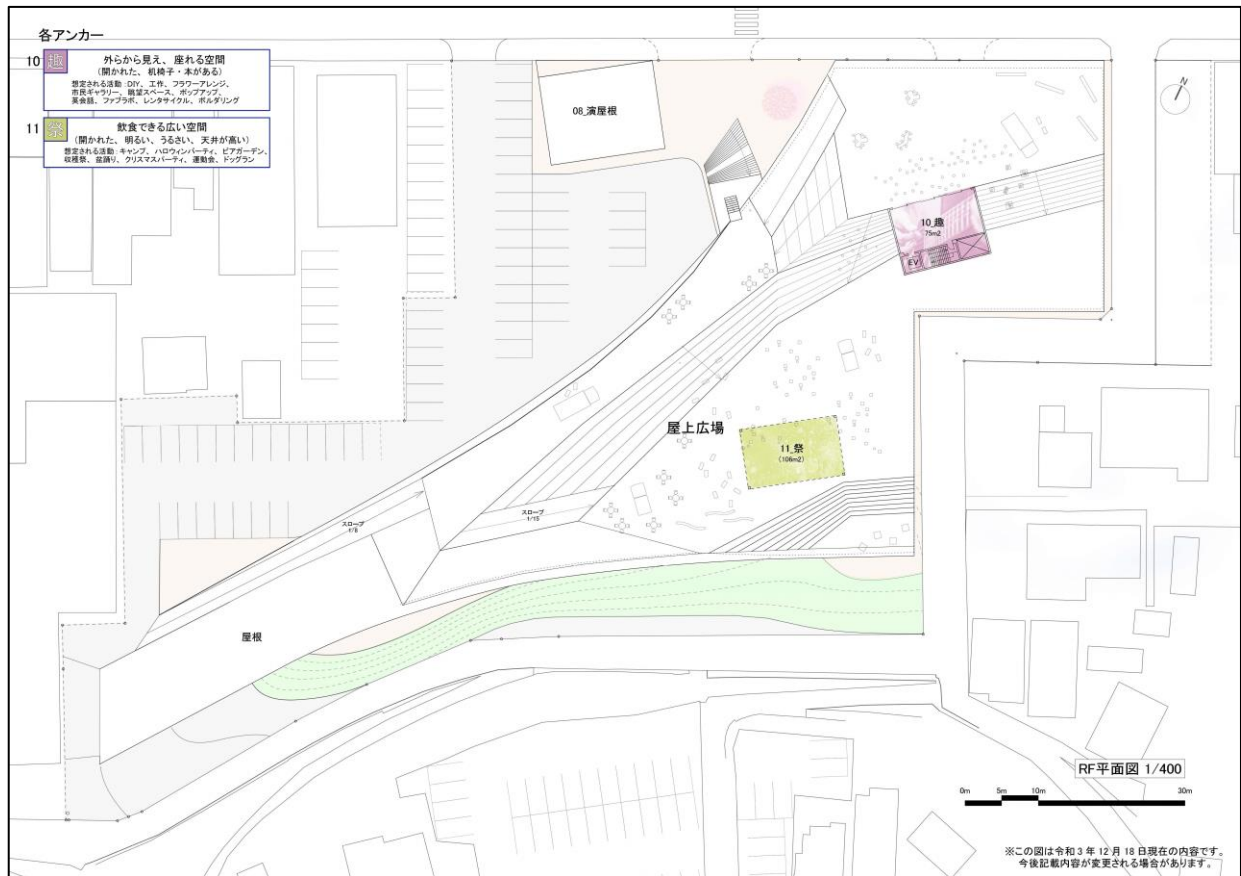
アンカーの数が減ることで配置バランスも変わる。どこに何を置いたらいいのかを考え、もう一度全体の配置を調整した。それが今日お持ちした案である（配付資料参照）。

<主な変更箇所>

- ・「奏」と「鏡」のアンカーを一つにまとめた。
- ・「子」のアンカーは隣接する屋内広場の広い状態をキープするための最善の角度・配置から調整している。
- ・「発」のアンカーは色々なコンテンツをつくったり発信できるアンカーだがこの中に「作」のアンカーの機能の一部を入れている。また、「和」のアンカーにも「作」の機能の一部を入れている。







今日はその調整した案を模型としてお持ちしている。みなさんとこれまで長い間話してきた内容がぎゅっと詰まった案を理想的な形で実現していくべく実施設計を進めて行きたい。



説明者：李（アカデミック・リソース・ガイド㈱）

これまで at! おぢやでみなさんと、あんなことがしたい、こんなことがしたいと色々話してきた。コストなど様々な条件の中で、設計のプロのみなさんがこの場で出たものを最大限活かす形で作ったものが先ほどのプランである。模型があるので後ほどゆっくり見ていただきたい。

今日のワークショップは施設の中のプログラムを考えようというものである。新しい施設の中で何をしよう、どんな活動をしよう、どんな過ごし方をしようということを具体的に考えていきたい。でもそれは今までもやってきたことではないかと思う方もいらっしゃるかもしれない。これまでは設計事務所のみなさんに建物の形をつくっていただくためにそうしたことを行ってきた。これまでやってきたことと今日からやることはつながっている。そのため同じことをまた繰り返し話すことになるかもしれないが、繰り返し話すのは大事なことからである。

#### 12月「at! おぢや」ワークのイメージ

at! おぢやが主体的な市民協働のプラットフォームになっていくための第一歩として、  
アンカンファレンス形式を導入します。

#### アンカンファレンスとは

参加者自身がテーマを出し合いそのテーマについて自分たちで話し合い、参加者全員で作り上げる話し合いの形式

- 自由な発想・発言を歓迎する
- 参加者はすべて同じ立場
- セッション中に他セッションへ移動してもよい

#### テーマ出し タイムテーブルづくり

今回の at! おぢやで話し合いたいテーマを参加者で出し合いながら、タイムテーブルを作成する。



#### セッション × 2回

話してみたいテーマのテーブルに集まり、設定された時間そのテーマについて参加者同士で話し合う。

「アンカンファレンス」という言葉の意味だが、通常みなさんが集まって会議をしたり、講演を聴いたりするときは、お題目も話す人も決まっています。話す人と聞く人の役割が分かれています。あるいはもう答えが決まっているものも多かったです。このアンカンファレンスはそういうものではなく、話し合うテーマ出しからみんなで行い、一緒につくって進めていこうとする対話の場である。今まで at! おぢやで目指してきたこと、やってきたことの延長である。それをより本格化していきたい。なぜなら新しい施設ができて、その施設を動かして発展させていくのはみなさんだからである。それをどのようにやっていくかを自分たちで自発的に議論し、そしてそれを実際にやってみては振り返って改善していく。それを 市民のみなさんと市役所職員のみなさんが一緒になってやっていくことが at! おぢやで目指すところである。令和 6 年 6 月に施設が完成して終わりではない。むしろ建物ができるから本番である。それを今の段階から少しずつやっていきたい。

今日行うアンカンファレンスというやり方は初めての方が多いため、とまどいもあると思う。今日

やったぐらいではよくわからないかもしれない。でもそうしたモヤモヤを抱えながら回数を重ねていく中で少しずつみなさんがこれを理解して出来るようになっていくことが大事である。今日この場がうまくいくことが大事ではない。

12月「at!おぢや」ワークのイメージ

■ タイムテーブルイメージ

	1	2	3	4
① 14:15 ~14:50	A1 	A2 	A3 	A4 
B 15:00 ~15:35	B1 	B2 	B3 	B4 
	5	6	7	8
A 14:15 ~14:50	A5 	A6 	A7 	A8 
B 15:00 ~15:35	B5 	B6 	B7 	B8 

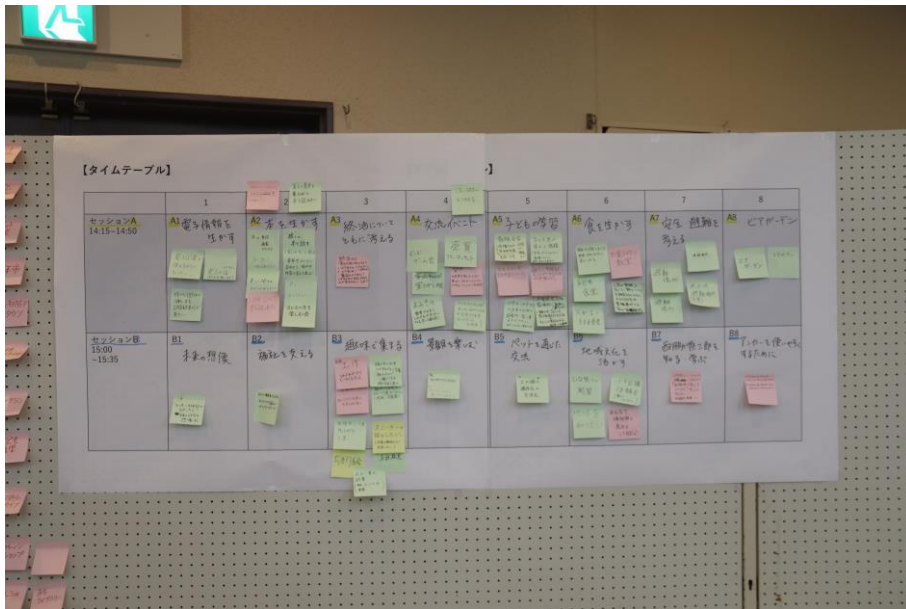
今日はアンカンファレンスという対話を2回行う。この表には1~8までのマスがある。1回目のセッションAで8個のテーマを8箇所に分かれて行う。2回目はセッションBで同じように8個のテーマを8箇所に分かれてやる。でも先ほど話したとおり、話すテーマは今はわからない。そのテーマをこれからみなさんに考えていただく。この表にみなさんから新しい施設でやりたいことを付せんに書いて貼っていただき、それを私の方でみなさんと話しながらいったようなテーマにまとめていく。

付せんには新しい施設でやりたいことを一人一個書いていただくが、あとは市でやってくださいではない。これをやる主体は自分たち、みなさんである。それを意識していただきたい。

もう一つはそれを自分ひとりではなく、地域の仲間や普段はつながっていない同世代の人たちだったり、あるいは世代を超えた地域の人たちだったり、まず自分たちでやるという意識が大事だが、それと同じくらい一人ではなく誰かと一緒にやるということも意識してこの施設の中でやりたいことを考えていただきたい。

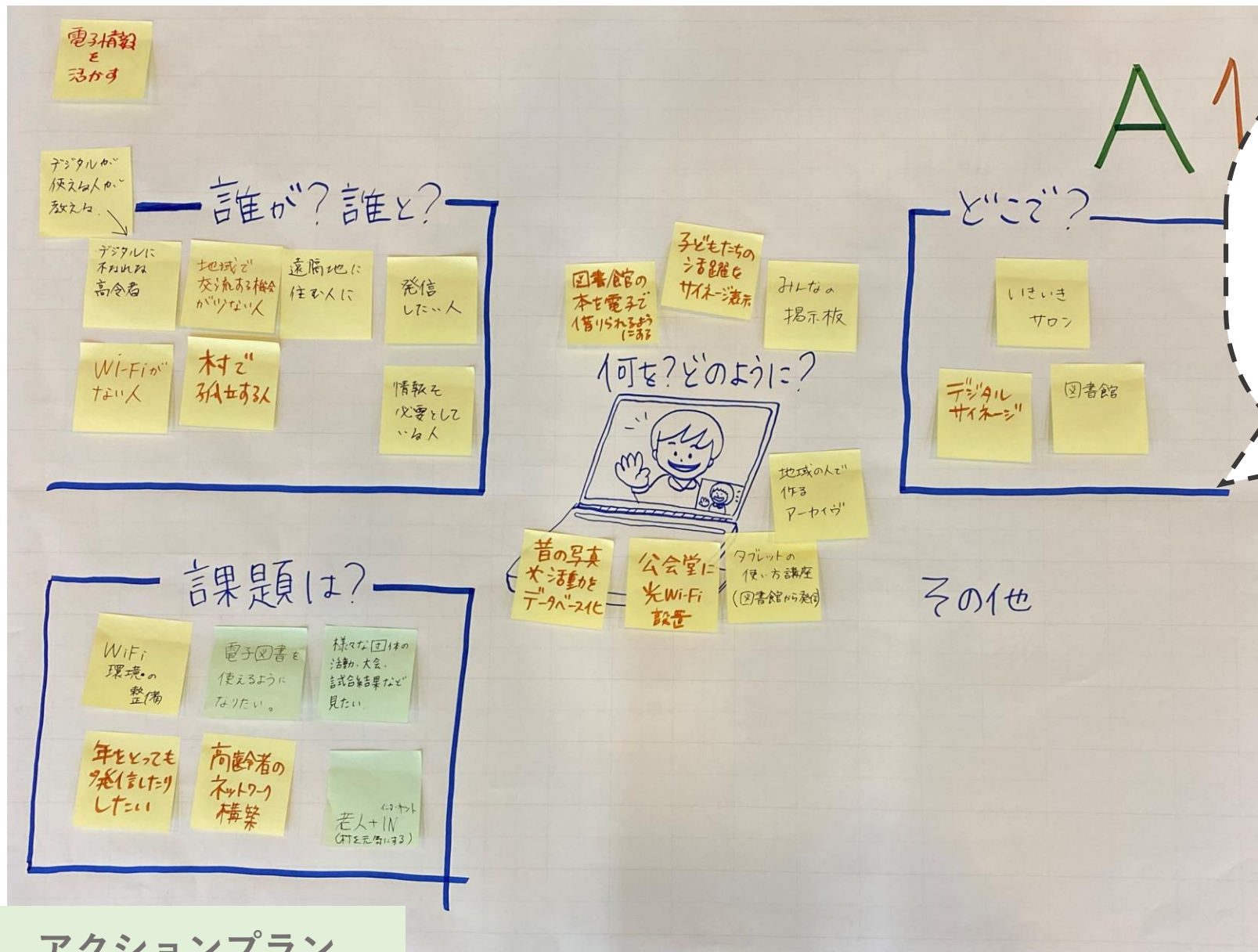
今日は全部で16テーマについて話す。選ばれたテーマを書いた人がそのグループの担当者となってリードする役割を担っていただきたい。我々もサポートする。それ以外の人は、他のテーマに自由に移動して参加してもらってもいい。





# セッションA

## テーマ1「電子情報を活かす」



・環境・設備の整備  
・コンテンツづくり  
・リテラシー向上への取り組み など  
さまざまな視点があがっています。  
ここから、みなさん自身がすぐにとり  
くみはじめられることとしては、以下  
のようなアクションがありそうです。

このテーマを  
実現・実践するためには、  
職員のみなさんは  
何ができますか?何をしますか?

### アクションプラン

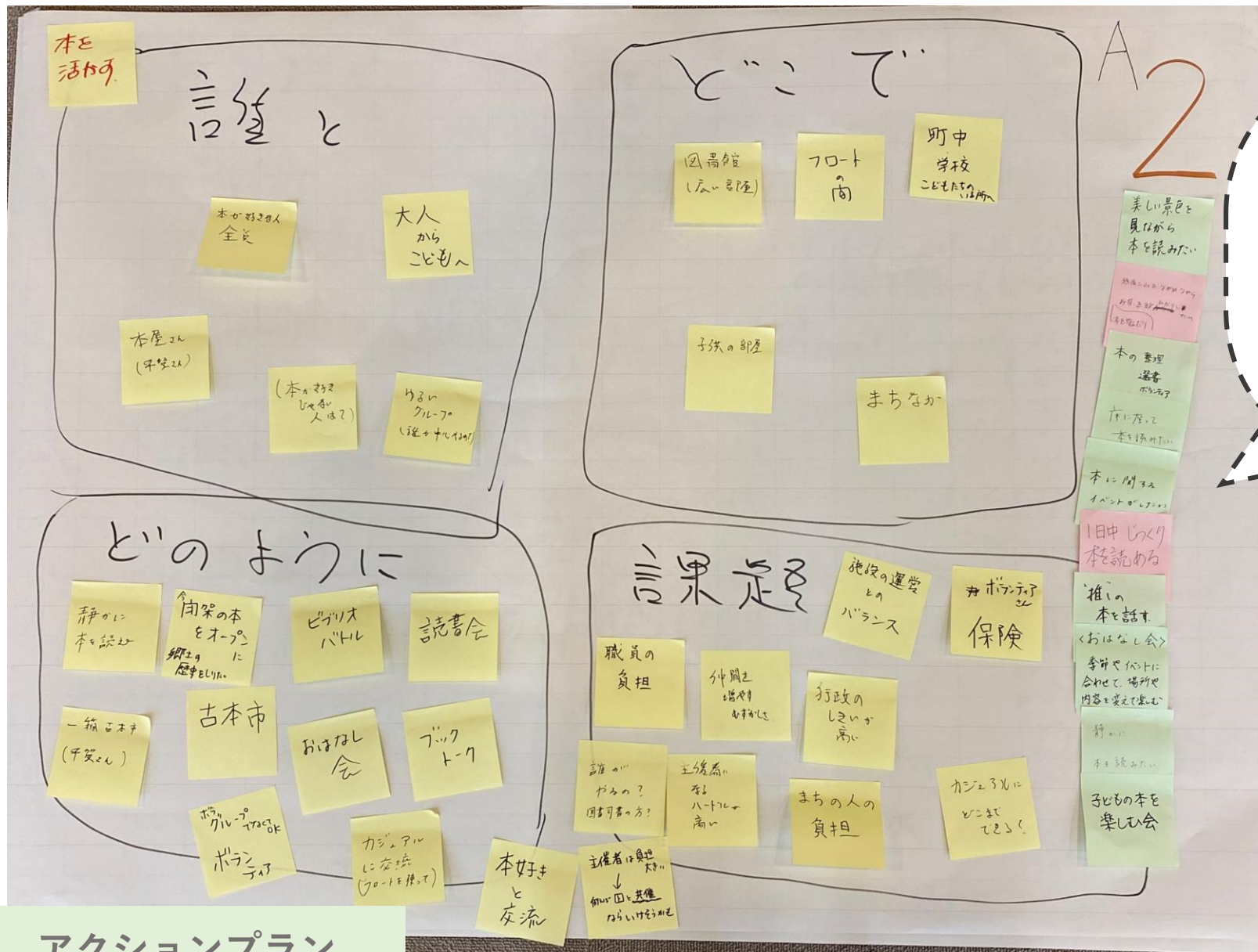
- ・地域のアーカイブしたい素材の持ち寄り・検討
- ・掲示板の模擬的な設置  
(これで何を伝え合うか?どこに設置したらみて欲しい人の目に触れやすいか?などを検討する)

図書館だけでなく、地域の公会堂なども含めてWi-Fi等の整備を行うことが必要と考えています。アーカイブの対象とする素材については、自由度が高い方が望ましいのではないのでしょうか。市民サークル等と協力して活動内容のアーカイブ化を行うなど、実際に試しながら検討してもいいかもしれません。掲示板の設置場所については、やはり総合体育館などの人が集まる施設が候補になると思います。その施設の利用者に対し、どんな情報を求めているのかアンケートを行ったりすると、ニーズが掴める可能性があると思います。



# セッションA

## テーマ2 「本を活かす」



本にまつわるイベントの案がたくさん出てきています。施設の開館を待たずに、イベントを立ち上げたり動かしてみながら考えていけると良さそうです。

このテーマを実現・実践するためには、職員のみなさんは何ができますか？何をしますか？

### アクションプラン

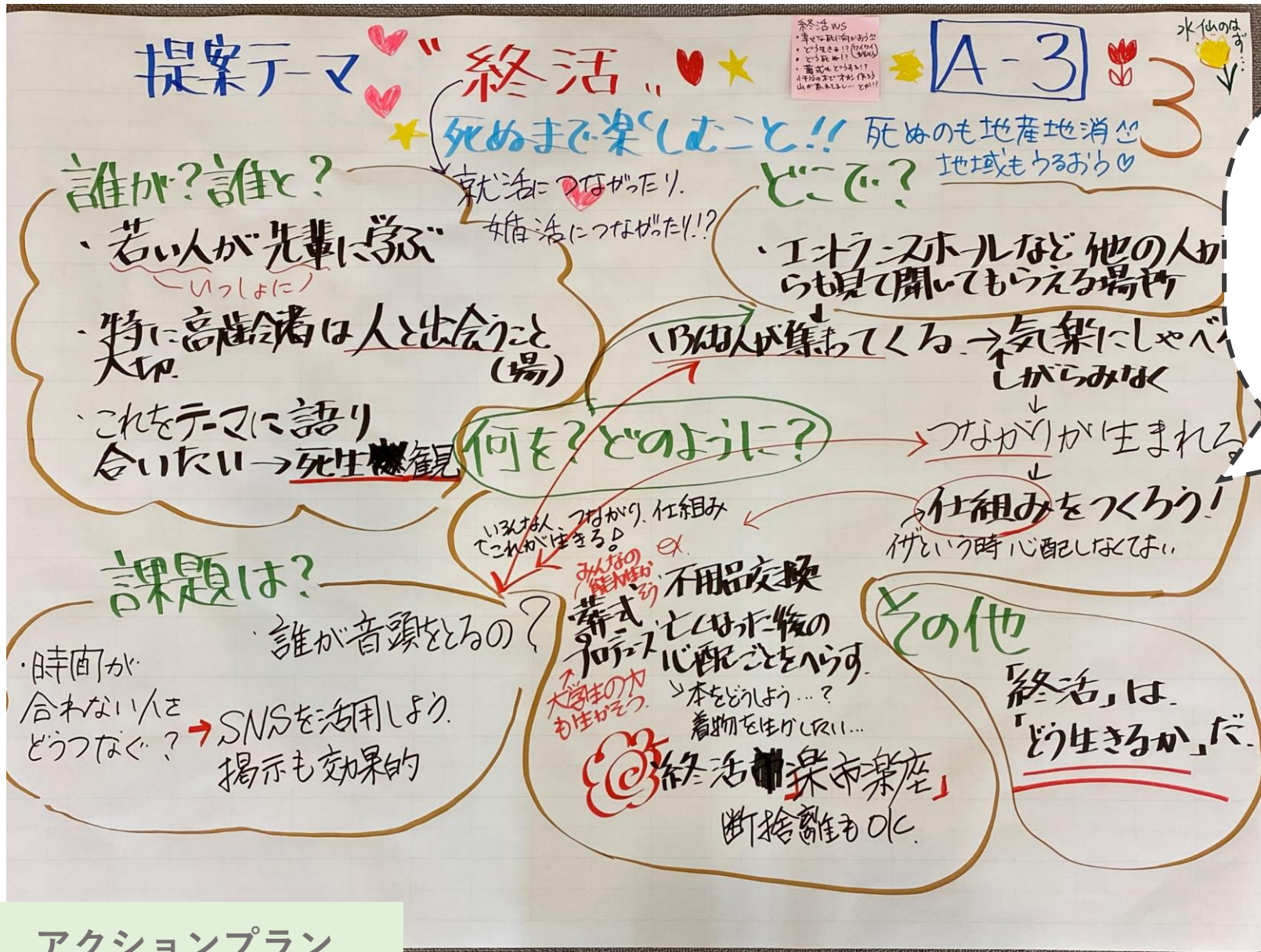
- ・ 運営する仲間、開催場所を具体化する  
(自分でイベントを立ち上げ・運営するとすると、何がハードルになるか？どんな役割の人と仲間になれば現実感が出てくるか。人・場所の確保の交渉するためにまずはどこに相談できそうか検討する)

イベントやボランティア参加が身軽にできる仕組み作り、流れの整理が必要と感じました（現在、ボランティアは保険に入るため、即日参加が難しい）。



# セッションA

## テーマ3 「終活についてともに考える」



かなり自分ごとでの議論が深められていますね。  
このテーマを設定した目的と、その下での動きが具体的なところまで落ちてきています。

このテーマを実現・実践するためには、  
職員のみなさんは  
何ができますか? 何をしますか?

### アクションプラン

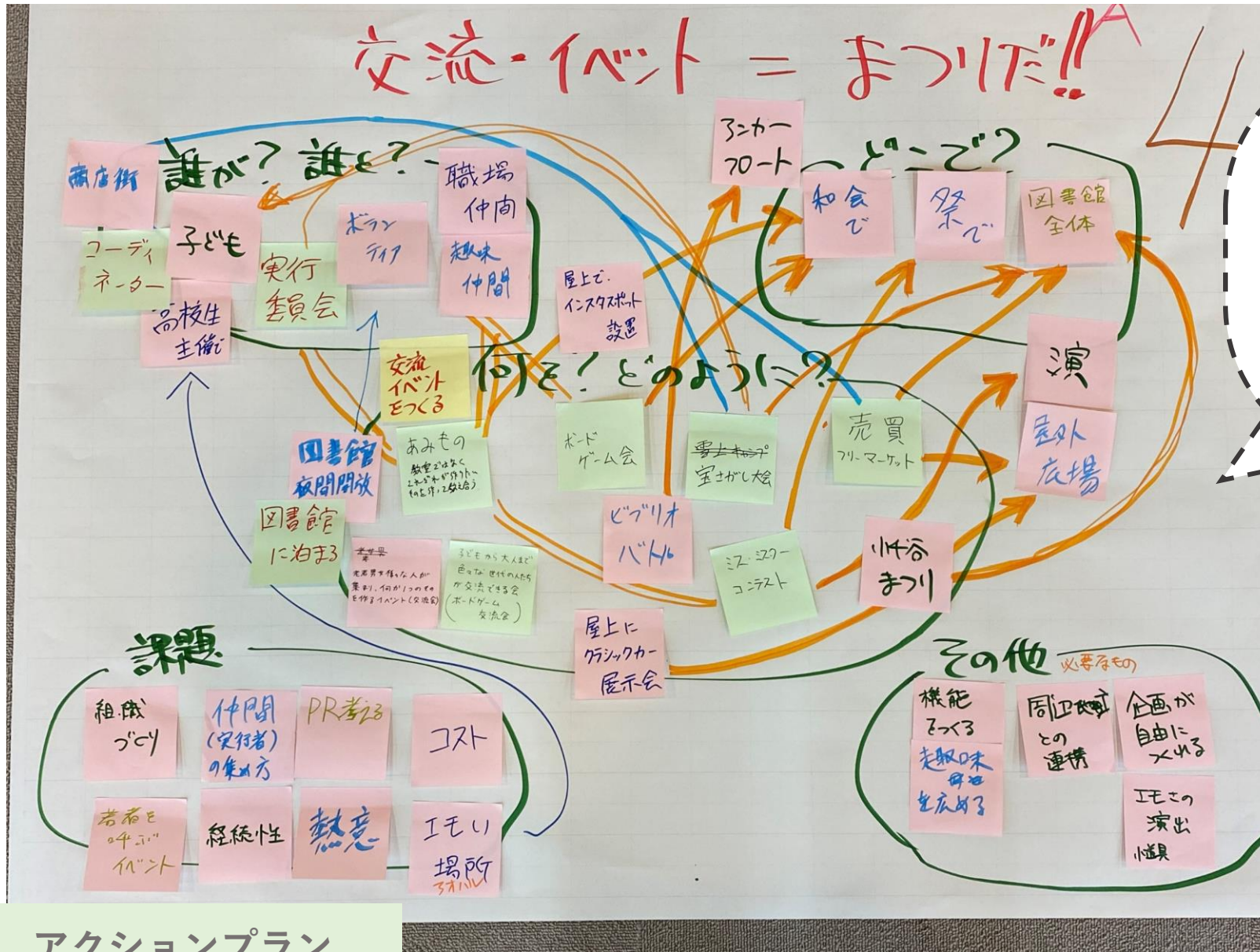
- ・ 関心のある・参画したいメンバーで、実際に動いていくために  
どんなスキルを持ち寄ることができるか共有する。  
→ それぞれのスキルを活かした動き出しを検討する

これまで長らく行われてきた閉じたコミュニティではなく、誰でも自由に参加していい（しなくてもいい）“外に開き続けるゆるい場”になるといいです。また、積極的な情報の公開やプロセスの共有が参加の輪を広げていくように思いました。



# セッションA

## テーマ4「交流イベント」



施設をフル活用できそうなテーマですね。  
多様なアイデアと、施設内のアンカーや機能を結び付けながら検討されています。

このテーマを  
実現・実践するためには、  
職員のみなさんは  
何ができますか？何をしますか？

### アクションプラン

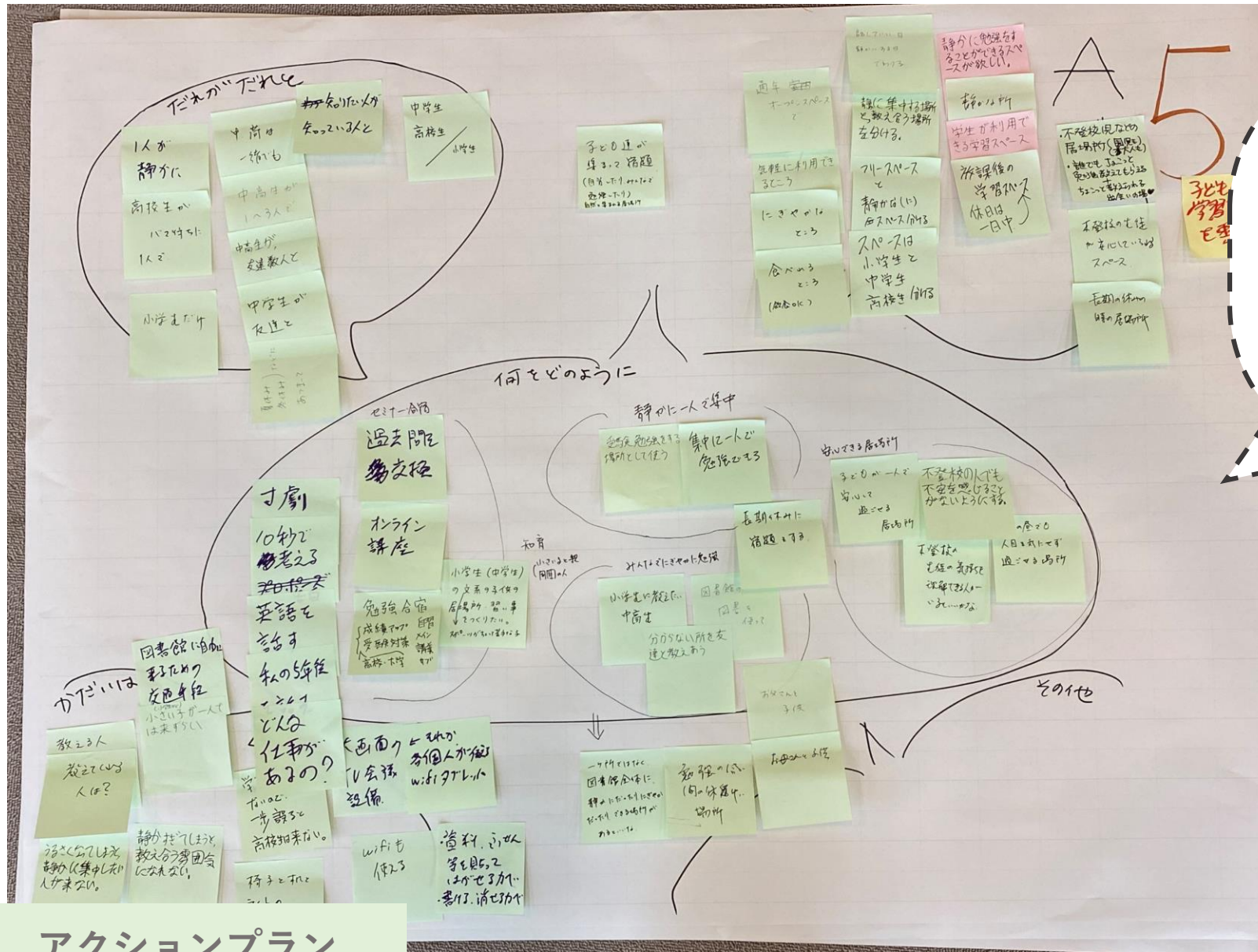
- ・出されたアイデアを、開館前に実験的に実施するとしたらどれが良いか絞り込む。
- 該当のアンカーで想像している機能を持った類似の場所がないか検討する。

自分の趣味や特技を他の人たちと一緒に楽しみたいという気持ちがあるけど、なかなか実際に形には出来ない。そんな思いを感じました。新しい施設ではそういった方々のサポートを積極的に行っていけたらいいと思います。



# セッションA

## テーマ5 「子どもの学習」



「学習」といっても、学習するスペースの視点、学習をサポートしたり促したりする機会の提供という視点など、様々な視点からの議論が展開されていたようです。

このテーマを実現・実践するためには、職員のみなさんは何ができますか？何をしますか？

### アクションプラン

- ・ 「学習」について、このテーマに関心のあるメンバーでの課題意識を共有し、全体で根本的に共通しているものは何か、その中でまず自分たちで取り組むべきことは何かを整理する。

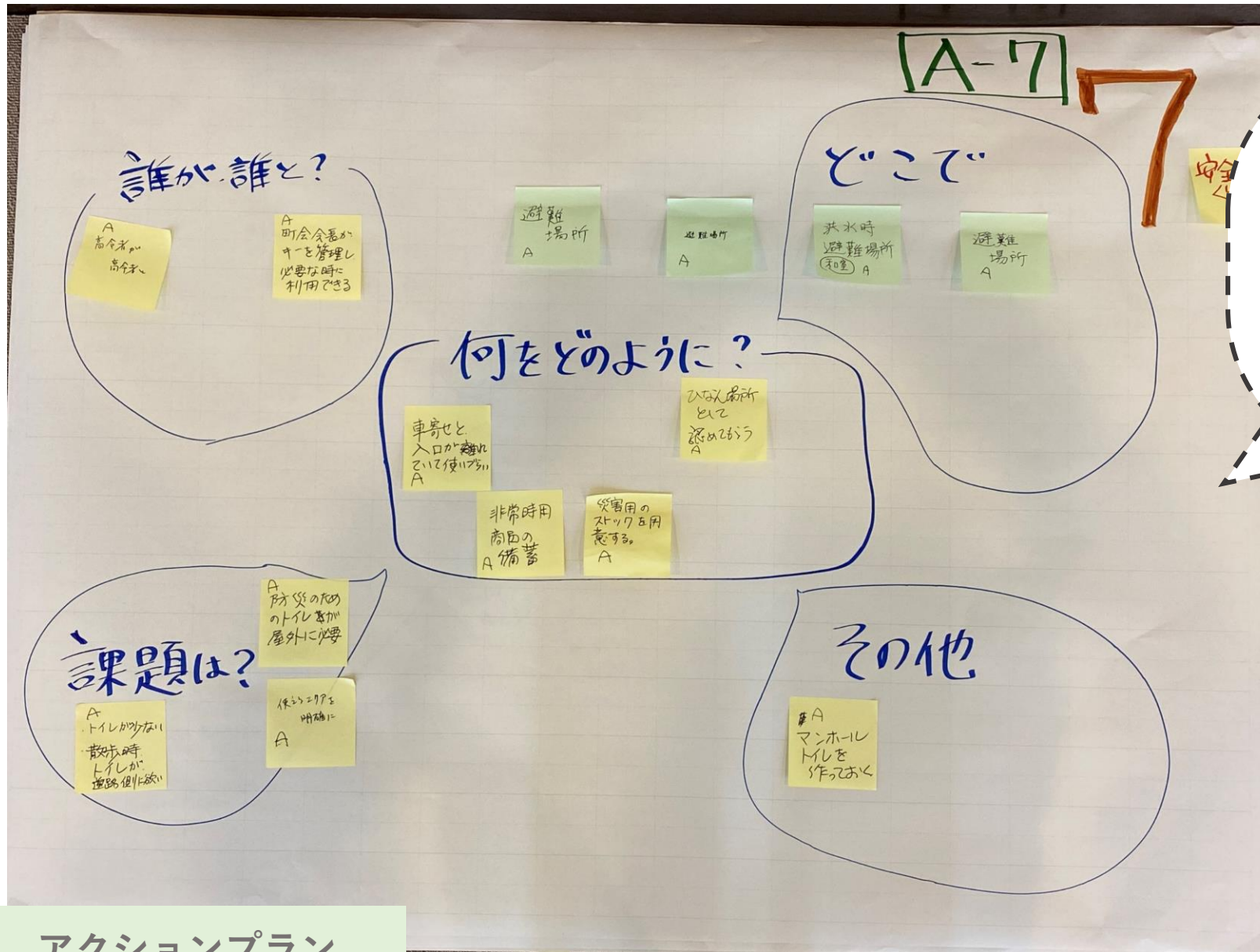
誰かから押し付けられるのではなく、自ら主体的に学ぶ姿を手に入れられるといいなと思います。





# セッションA

## テーマ7「安全・避難を考える」



通常時だけではなく、何か起こったときのために、何を備えておくべきか、ということを中心に議論がなされていたようです。  
「誰と」には市民同士がどう動いていくかの視点も見られます。

このテーマを  
実現・実践するためには、  
職員のみなさんは  
何ができますか？何をしますか？

### アクションプラン

- ・ 平常時から、災害時に備えて、他の地域ですでにどんな取り組みがなされているか、その事例を調べる→企画する

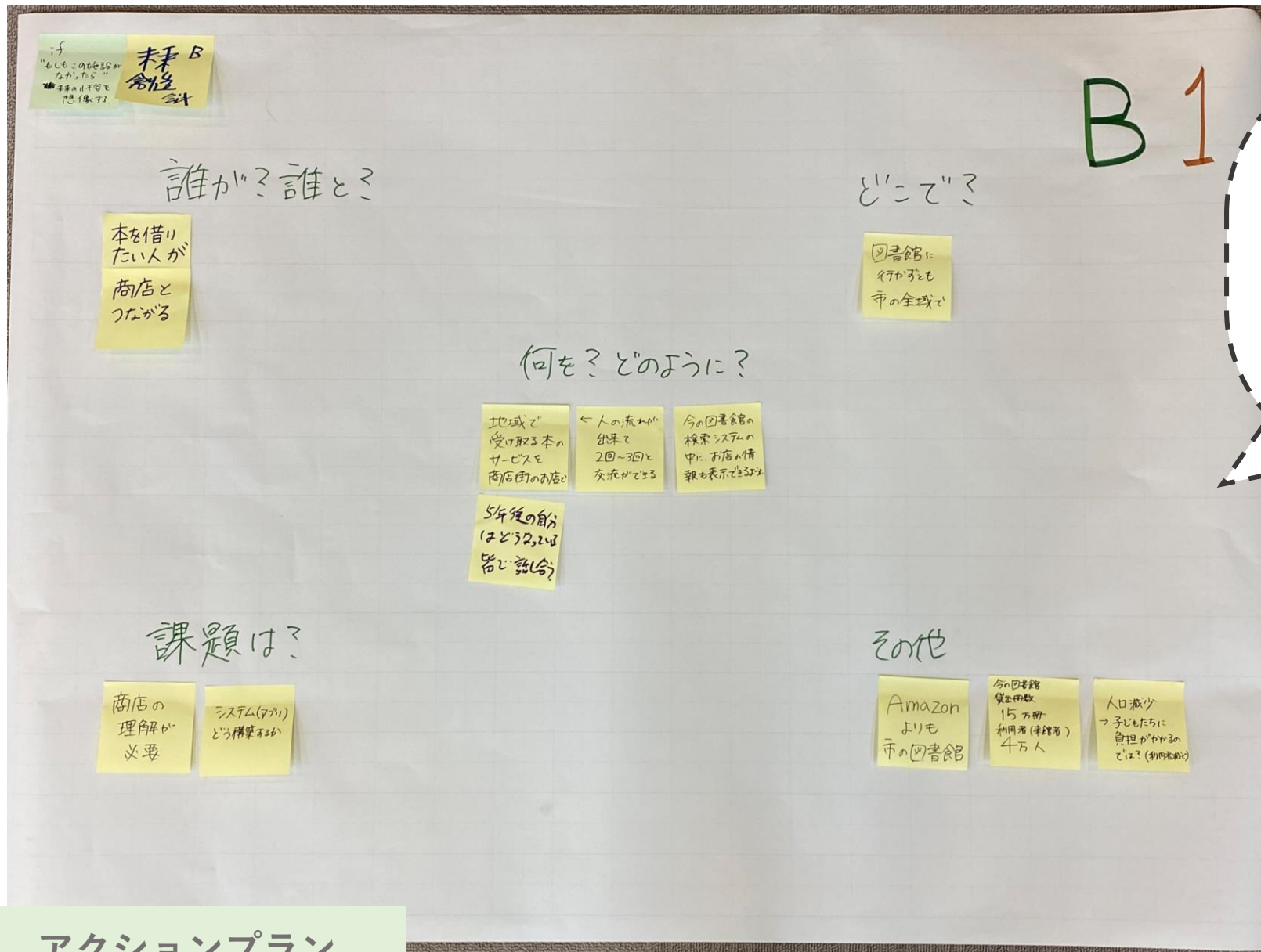
市が定める防災計画と連携しながら検討できるとよいと思いました。





# セッションB

## テーマ1 「未来の想像」



「未来」というのは、メンバーごとに視点の幅があり難しいテーマだった様子が伺えます。ただ、大きなテーマだからこそ大きな課題意識にチャレンジできる可能性も秘めていそうです。

このテーマを  
実現・実践するためには、  
職員のみなさんは  
何ができますか? 何をしますか?

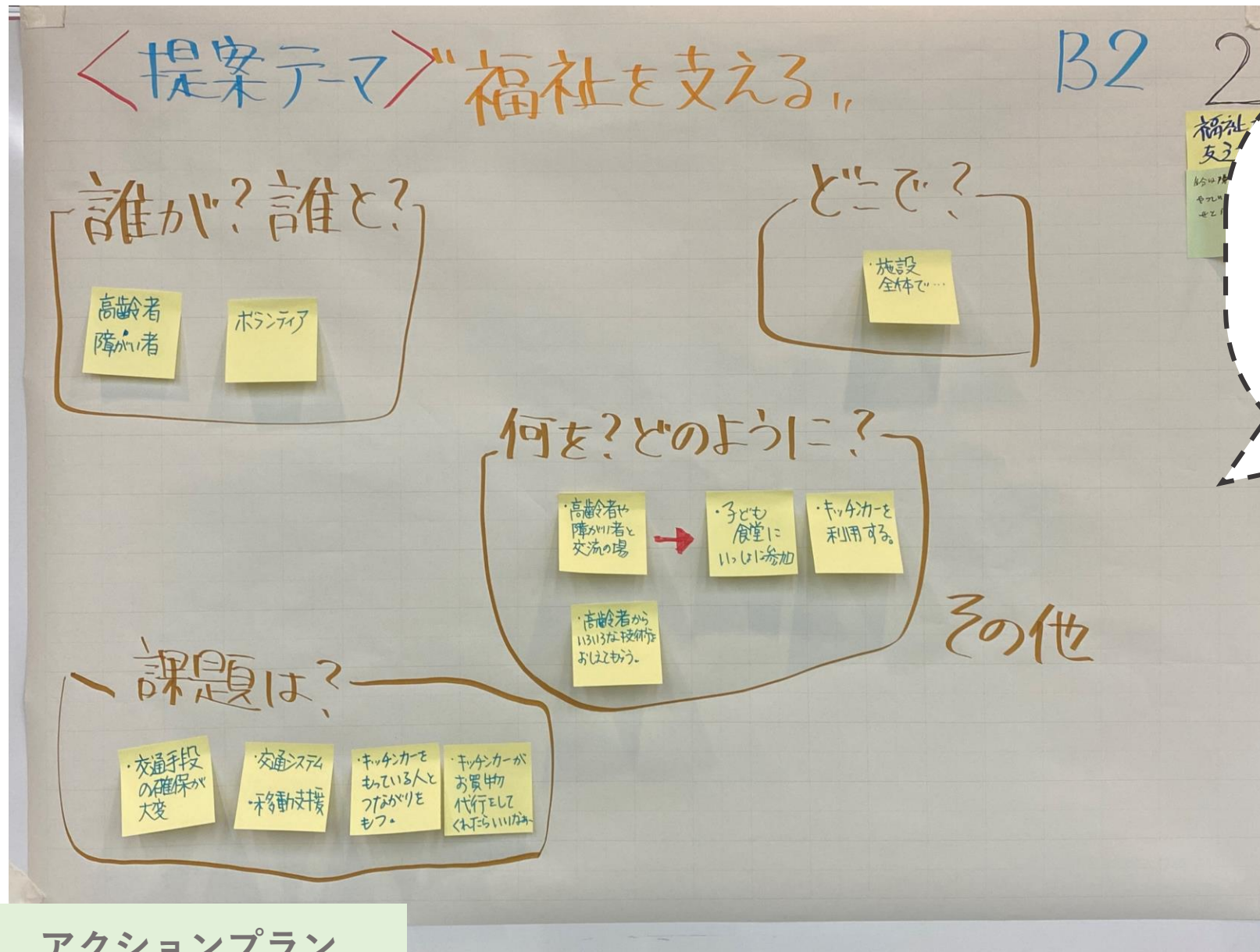
### アクションプラン

- それぞれの重点を置きたいことや課題意識を共有し、共通の目指すものや方向性を設定する。

図書館という施設にとらわれずとも、サービスや交流を行うことができるという視点で話が進みました。例えば、現在支所などで行われている借りた本の受け取りについて、商店にも協力してもらえれば、商店と利用者間に交流が生まれるのではないかと意見が出ました。この場合、商店の協力が得られるかが鍵になりますので、まずは仕組みづくりをしっかりと行い、説明会等を設ける必要があると考えられます。



# テーマ2 「福祉を支える」



福祉というテーマのもとに、様々な人たちが交流するきっかけにもなりそうなアイデアが提案されています。「ボランティア」とは具体的にどんな人たちを想定しているのかも詰めていけるとより現実的になっていきそうです。

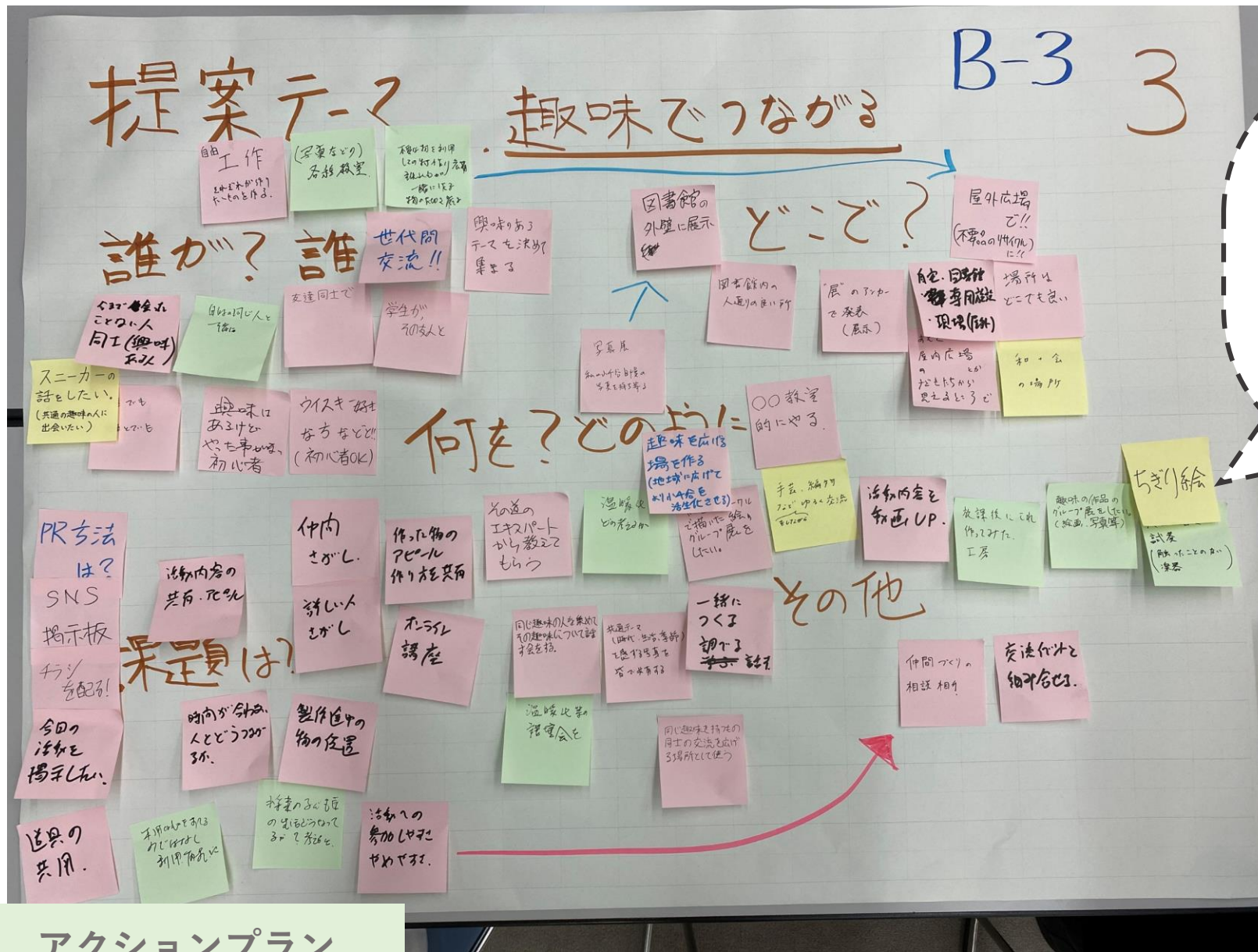
このテーマを  
実現・実践するためには、  
職員のみなさんは  
何ができますか？何をしますか？

## アクションプラン

- アイデアを具体化するにはどんな運営方法が必要になるか、どんな人に仲間になってもらう必要があるかを検討する。

持続的なものとするために、無理なく自然体で自分がやっていて楽しいと思えることが誰かにとっての価値になるような、そんな日常が新しい施設で起こっていくといいなと思いました。

# テーマ3 「趣味でつながる」



こちらにも「趣味」というテーマのもとにたくさんのアイデアが集まっており、議論の盛り上がりが見えます。検討の幅が広がっているため、動き出しのための整理ができるとういかもしれません。

このテーマを実現・実践するためには、職員のみなさんは何ができますか？何をしますか？

## アクションプラン

- 各アイデアの目的を共有し、優先順位を付けたり、近い内容でさらにこのなかからテーマを分けるなどの整理を行う。

温めている思いやアイデアについて、1人1人フォーカスしながらゆっくり話したいです。そこから、各々の方向性を整理したり、コラボレーションの可能性を模索したりできるのではないかと思います。



# セッションA

## テーマ4 「小千谷の景色を楽しむ」



内外含めてこの地域の景色を味わい共有したいという、共通の目的意識が感じられます。  
「景色」「景観」でも具体的には何を指しているかによってとるべきアクションも変わってきそうです。

このテーマを実現・実践するためには、職員のみなさんは何ができますか？何をしますか？

### アクションプラン

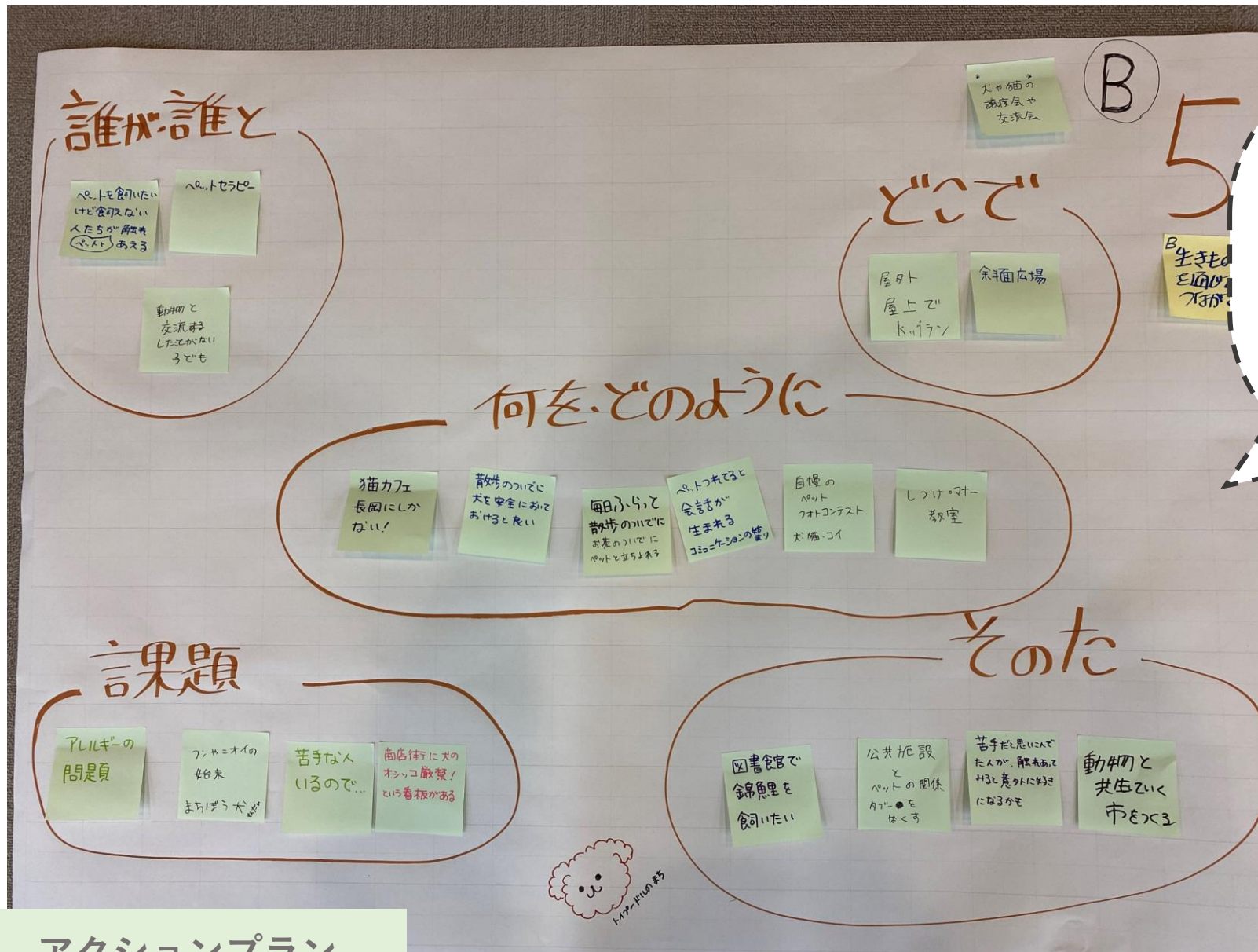
- 「景観」「景色」についての素材（写真や知識）の共有、不足しているものの確認や整理。
- 上記が効果的に共有できるためのイベント等の企画。

見える景色の解説、景色に関連する本の設置など、越後三山の景観をはじめ、施設から見える景色をより一層楽しめるような展示物等の設置。そのほかの内外の景色の楽しみ方は、今後また話し合いの場を設けていきたいと思いました。



# セッションB

## テーマ5 「ペットを通じた交流」



メンバーの、動物とのふれあいに可能性を感じている様子が伺えます。個人のペット同士のふれあいなのか、動物園のように触れ合える動物たちの飼育環境を整備するのかで大きく方向性が変わってきそうです。

このテーマを実現・実践するためには、職員のみなさんは何ができますか？何をしますか？

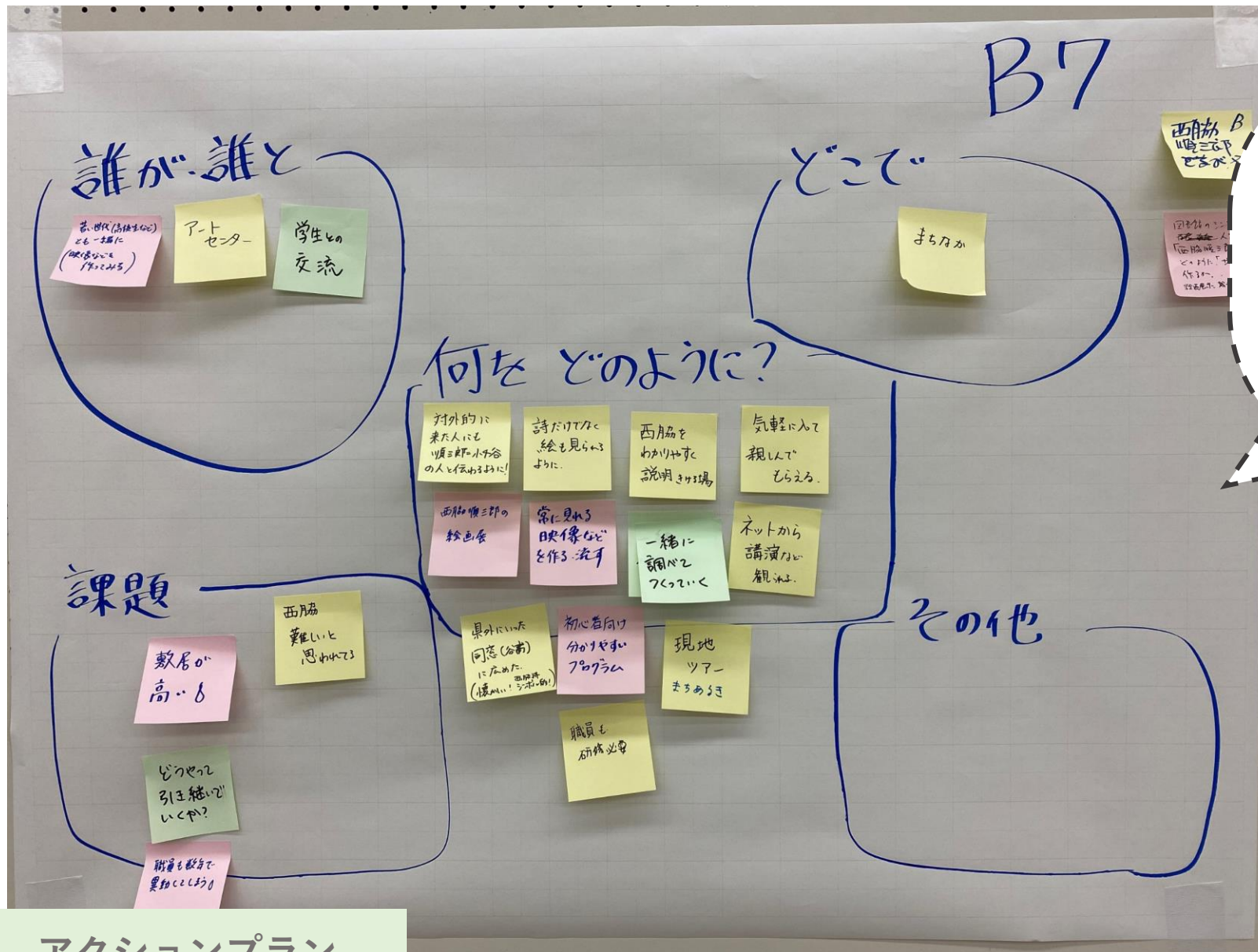
ペットというよりも、一家族として一緒に暮らすライフスタイルが定着している今、動物と公共との関係もこれからは考えていかなければいけない重要なテーマであると思いました。







# テーマ7「西脇順三郎を知る・学ぶ」



西脇順三郎についてより広くその世界や良さを共有したいという思いが強く感じられます。新たなチャレンジとしてのアイデアの検討が必要そうです。

このテーマを実現・実践するためには、職員のみなさんは何ができますか？何をしますか？

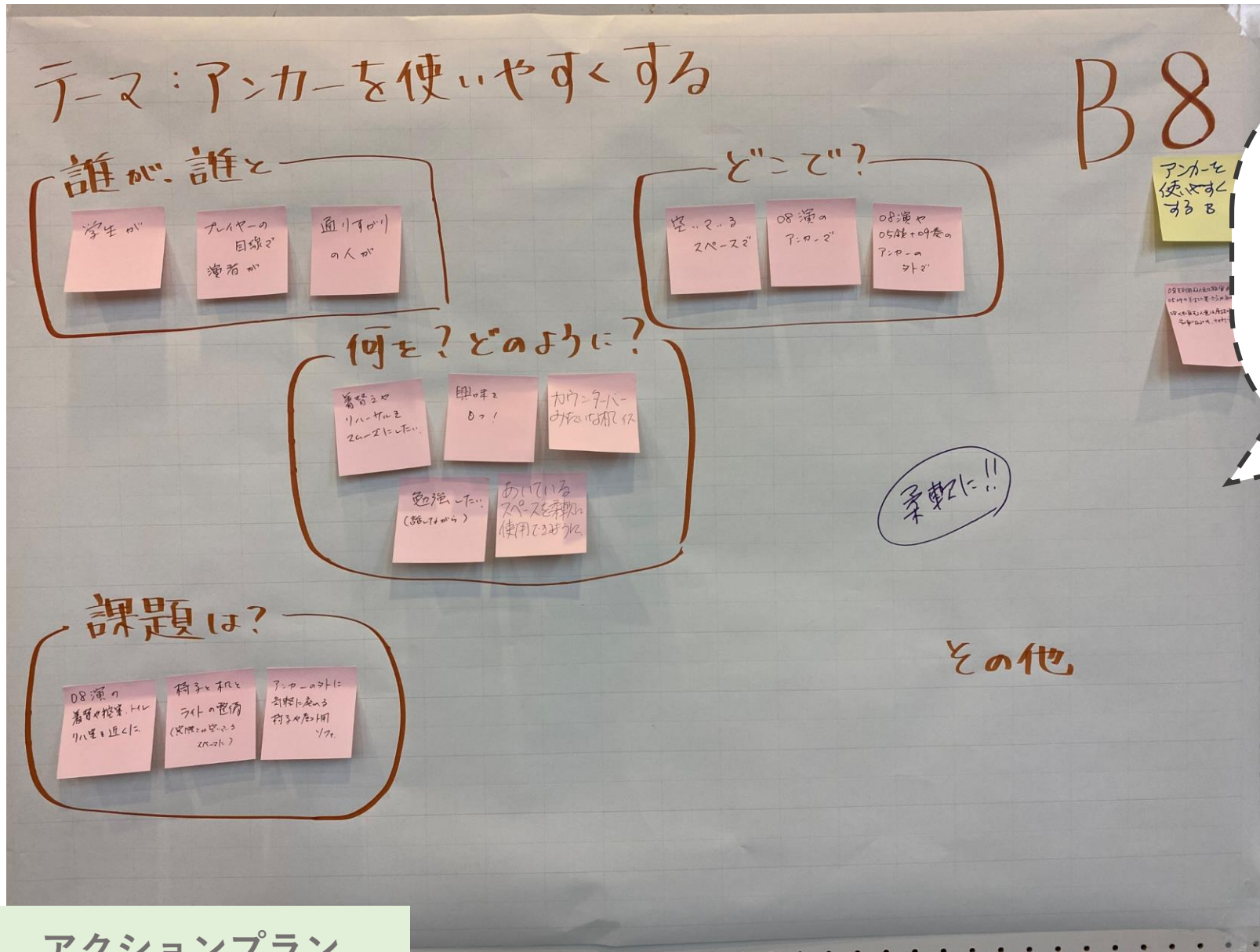
## アクションプラン

- これまで西脇順三郎を知らなかった人が関心を持つにはどんな人が関わることでその層を広げることができるか、より広く協力者を探しアプローチしてみる。

「作」アンカーでポスター作製や動画作成をしている利用者と繋げて西脇発信の幅を広げるなど、利用者同士の仲介を行うことが必要と感じました。

# セッションB

## テーマ8 「アンカーを使いやすくするために」



アンカーのなかでも「演」のアンカーへの関心が高そうですね。その他もアンカーがどんな特徴を持っているかを一緒に知って使い方を考えていくとより幅が広がっていくかもしれません。

このテーマを実現・実践するためには、職員のみなさんは何ができますか？何をしますか？

### アクションプラン

- 演アンカーでイメージされている活動を、演アンカーと似た規模の既存の施設で試してみる。
- 他のアンカーがどんな特徴を持っているか、どんな使い方ができるかなども合わせて検討する。

新施設と市民会館の性格づけを明確にしそれぞれの機能の可能性を周知するとともに市民に喜ばれる使い方を提案することが必要と思います。